

ヒナコウモリ科の仲間

Vespertilionidae sp.

ヒナコウモリ科

「コウモリ」の由来

漢字名: 蝙蝠

蚊を食べるから「蚊欲(かほり)」が転じたという説、翼の様子から「皮張り」が転じたという説、川守(かわもり)が転じたという説などがある。

十勝地方で確認されているコウモリは13種(2003年現在)で、コキクガシラコウモリ(キクガシラコウモリ科)以外はすべてヒナコウモリ科の仲間である。環境省レッドリスト(2007)ですべて指定からはずされた。

コウモリ(小型)一般の特徴

目は大変に小さく明暗を感じる程度。超音波を口や鼻から発してその反響音で障害物・餌・自分自身の位置を判断する。熱帯地域を除き、冬には体温を下げて冬眠する。十勝地方のアイヌ語では「カパカカムイ」という。

科名	種名	国レッド
キクガシラコウモリ科	コキクガシラコウモリ	—
	モモジロコウモリ	—
	ドーベントンコウモリ	—
	ホオヒゲコウモリ	—
ヒナコウモリ科	ヒメホオヒゲコウモリ	—
	カグヤコウモリ	—
	キタクビワコウモリ	—
	ヤマコウモリ	—
	ヒナコウモリ	—
	チチブコウモリ	—
	ウサギコウモリ	—
	テングコウモリ	—
	コテングコウモリ	—

十勝で確認されているコウモリ(2003)

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種)
草花

(外来種)
草花

哺乳類

(水辺)
鳥類

(草原)
鳥類
樹林

食性

主に飛びながら小型の昆虫を捕食する。出前にねぐらに帰る。日没前にねぐらの穴から出て、飛翔する昆虫を食べ、日の

繁殖生態

秋に交尾をし、排卵・受精は冬眠明けの春に行われるのがほとんどである。

生活サイクル

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
出現期					■	■	■	■	■	■		
交尾期								■	■	■	■	
冬眠期	■	■	■	■	■					■	■	■
受精・出産・育児					■	■	■	■				

モモジロコウモリ

Myotis macrodactylus ヒナコウモリ科

名前の由来

モモジロは下腹部から大腿部に白い毛が生えているため。漢字名: 腿白蝙蝠



形態的特徴

頭胴長(鼻先から尻尾の付け根まで) 44~63mm、前腕長(肘の後端から腕関節までの長さ) 34~41mm、体重5.5~11g。耳は比較的細長い。後ろ足が大きい。暗い黒褐色系の毛色で、下腹部から大腿部に白い毛が生えている。

繁殖生態

交尾期は10~11月、翌春に受精、妊娠期間は約3ヶ月、1子を産み、30~35日哺育する。初産年齢は2歳。寿命は最長で19年だという。

生息環境・分布

昼間の隠れ家は洞穴。採食場所は河川、丘陵地・森林(樹幹の間や樹冠付近)。

分布: 国外分布は、東シベリアや南サハリンに分布。国内分布は、北海道、本州、四国、九州、佐渡、対馬に分布。

北海道内では、上川北部・宗谷を除く地域に分布。十勝地方では、十勝川中流部、芽室町、糠平で確認されている。

興味深い話

- 体に何か触れている状態を好み、岩の割れ目などにもぐり込むか、集団の場合は密な群塊をつくるという。
- 腹這い行動をする習性が強く、洞窟の天井をはっていき、

他の種のコロニーに参入して混群をつくるという。夏出産時にはオス、メス集合しての大コロニー^{*}を形成し、春秋にはオス、メス分かれたコロニーをつくるという。

*コロニー: 集団のひとつかたまり、集団ねぐら、集団営巣地

ヒナコウモリ科一般に対する配慮事項

樹洞のできる木のある樹林、洞窟などのねぐらとできる場所、及び大量に水生昆虫が羽化する樹木に囲まれた水域などの採餌場が必要である。

参考文献

「コウモリ観察ブック」熊谷さとし・大沢夕志・三笠暁子・大沢啓子共著 桜桃書房 2002

「日本の哺乳類」阿部永監修 東海大学出版会 1994

「日本動物大百科 1 哺乳類 I」日高敏隆 監修 平凡社 1996

「北海道 森と海の動物たち」エコ・ネットワーク編 北海道新

聞社 1997

「北海道立アイヌ民族文化研究センター調査研究報告書3 アイヌ語十勝方言の基礎語彙集 一本別町・沢井トメノのアイヌ語」

澤井春美（編・著）、北海道立アイヌ民族文化研究センター 2006

魚
類

底
生
動
物

爬
虫
類
両
生
類

ト
ン
ボ

チ
ヨ
ウ

樹
木

(在
来
種)
草
花

(外
来
種)
草
花

哺
乳
類

(水
辺)
鳥
類

(草
原・
樹
林)
鳥
類
ワ
シ
・
タ
カ